

百枚の札へ

岩手県花巻市立大迫中学校

二年 檜垣 媛子

自陣二十五枚、相手陣二十五枚。五十枚の札を前に、一音目が聞こえるのを待つ：私の一番好きな時間です。

半年ほど前、大学生のいとこの影響で私は百人一首「競技かるた」に興味をもちました。もともと私は何にでも興味をもち、しかも、すぐに「やりたい！」と思う性格なので、この時も「何となく格好良さそうだから。」という軽い気持ちでやり始めました。しかし百人一首には想像以上の大変さと、反面、百人一首だけの魅力があることが分かりました。

まず大変なことは、百首全ての決まり字と下の句をペアで覚えなければならぬこと。場にある五十枚の札の位置を正確に把握しなければならぬこと。上の句から下の句を思い出すのではなく、決まり字かそれ以前で札を取らなければいけないことでした。

幸い、百首覚えることはあまり苦勞せずに行きました。一方で札の位置を把握することはさっぱりできませんでした。位置が分からなければ決まり字で取ることもできません。マンガのように一音目が聞こえると同時に札をはらう格好良いイメージとは程遠く、一週間もしないうちに嫌になってしまいました。

た。そんな状態でいとこと対戦しても取られてばかりで、十枚も取れないことがほとんどでした。いとことするかるたは好きでも、手を伸ばせないことが悔しくて、「格好良さそうだから。」と始めた自分が情けなく思えました。

そんなことを考えていた時、いとこが私に言ってくれました。

「私にはかるたでできる友達がなくて、いつも一人でやっていたから、ひめちゃんができるようになってくれて嬉しい。」

と。そして気付きました。

いとこは一人でも楽しいからやっていたんだ。かるたが好きだから、本気になれるくらい好きだから強くなれたんだ。私もかるたを好きになったら強くなれるかもしれない。本気でやれば心から楽しめるかもしれない。

「本気になりたい。」

かるたは速く取れるから格好良いのではありません。きつと、誰もが速く取るために、上手になるために努力するから、格好良くなるんだと思います。どんなことでも本気でやっている人、努力している人は格好良いと思います。

まずは一回でもいとこに勝つために本気になろうと決めました。

それから毎日のように札と向き合いました。一人でやるしかなくても、そんなこと気にならないうらいかるたができることが楽しくて、日に日に取れるようになっていくことが嬉しくて、気付けば一日の中で一番楽しみにしている時間になりました。

今までの私なら、本気になる前に少しやっただけで諦めていました。ピアノを習っていたこともあったし、柔道をやりたいと母に頼んだこともありました。でもすぐにつまらなくなっただけでやめてし

まっていた。千二百年前の歌人たちは、私に「本気になること」の楽しさを教えてくれました。

百人一首の一番の魅力は平安時代とつながれることだと思えます。初句「なにわづに」が読まれた瞬間、タイムスリップしたような気分になります。また、現代の私たちが共感できる言葉も魅力です。時代を超えて、心に響く言葉にたくさん出会えました。こんな競技はいくつもあります。

私は将来、この百人一首をもっと広めていきたいと思っています。日本人が何百年も守り、語りついできたこの文化を海外に発信していきたいです。今も昔も変わらない、日本人の感じ方をより多くの人に知ってもらいたい。私が百人一首に教えてもらったように、他にも百人一首に魅力を感じ、一首一首に共感できる人がいるかもしれない。そう思ってくれる人を増やしていければいいなと思います。

そして、私にはもう一つ、小さな夢があります。高校に入学したら競技かるた部をつくり、大会に出場することです。私は今までのかるたの大会に出たことがありません。正式な大会場所が遠いこともあり、大会に出場することに憧れています。そんな憧れの場所です。それを仲間と味わってみたいです。

この二つはこれからの私の、自分と百枚の札へ向けた小さな挑戦です。

作文を書くに当たって

私の今までの短所は飽きっぽいところでした。しかし、競技かるたと出会い、いとこの真剣な姿勢と、百人一首の魅力から、本気になるということの格好良さを学び、私が打ち込みたいことを見つけました。「努力できる」ということは今後の大きな力になると思います。この力を最大限に活かし、自分の将来を充実させたいです。